

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あうりんこ紫原		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・言語聴覚士・作業療法士・保育士と専門職のスタッフがあり、皆でこどもの情報共有・支援内容検討・支援を行っている。活動内容を1つに特化していないことで、様々な方面からアプローチしやすい。	・こどもの担当を固定せずに、全スタッフでこどもに応じた支援や活動を取り組めるようにしている。また、評価を行い、結果に基づき個別支援計画・活動に反映している。各専門職の知識を融合できる。	・各々の知識のみならず研修や勉強会の充実を図り、より良い支援に繋げる。 ・全スタッフが評価・分析、統一した支援ができるように、定期的に研修や支援者会議を行う。
2	・保護者に直接、活動の振り返りを行っていることや学校での様子を情報共有出来る為、困りへの助言・提案が随時行える。	・話しやすい雰囲気作りに努めている。また、振り返りをする場所は、保護者のみだけでなく、お子さまのプライバシーを配慮できるように心掛けている。	・フィードバックが長くなりやすくなる為、目的・様子に応じた支援対応・今後の支援等、ポイントを押さえて保護者に伝えることができるようにする。
3	・地域で過ごすことを念頭に卒所の目標を立て、社会スキルやコミュニケーション課題等等計画的に取り組んでいる。	・地域への移行を考え、社会生活能力検査による評価や、地域の情報、習い事等の相談、今後のビジョン等保護者の意向と擦り合わせ、卒所に向けた活動計画を行っている。	・関係機関との連携の充実を図る。 ・関係機関に事業所への見学や支援者会議の機会を設ける。 ・長期休みでの郊外学習の内容を検討し、経験の幅を広げていけるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会やきょうだいの交流等開催出来ない状況である。	・開所日に保護者会を開催できる職員の人員確保が難しい。	・ペアレントトレーニングや研修会の案内 ・父母会や保護者会の日程の確保方法を模索する。
2	・ホームページ等のSNSの活用ができていない。 (あうりんこ新聞を発行してしている。)	・あうりんこ新聞の発行を継続していく。ホームページについては、4つの事業所での取り組みとなる為、全体でのお知らせとなっている。	・あうりんこ新聞の内容は常に検討し、マンネリ化しないように今後も工夫していく。 ・活動中の見学の機会を設ける。
3	・地域のこどもたちとの関わる機会が少ない。	・郊外学習の計画を立て、買い物経験や公園利用の中で地域の人との関わりがもてるようにしているが、子ども同士の関わりはタイミング等が難しい。	・郊外学習の内容と回数の検討。公園で遊ぶ機会も検討し、地域の方との触れ合いの機会を検討していく。